



つながり、ひろがる社会の仕組み

-徳島県上勝町におけるゼロ・ウェイストの実践例-



一般社団法人amu
代表理事 東 輝実

かみかつ

徳島県上勝町



〈位 置〉 羽田空港から徳島阿波おどり空港まで飛行機で55分
空港より車で約1時間30分程

〈人 口〉 1,305人 706世帯 (R7.9.1)
高齢化比率 53.13%

〈総面積〉 109.68km²
88.3%が山林、内80%が杉等の人工林
平地は1.8%

〈産 業〉 農業、林業

上勝町を支えてきた二つの柱



葉っぱビジネス
「いろどり」



日本ではじめて
ゼロ・ウェイスト宣言をした町



ゼロ・ウェイストとは

廃棄物の発生防止、削減、再利用、リサイクルを推進し、
焼却や埋立処分される廃棄物をゼロにすることを目指す。



ゼロ・ウェイスト コミュニティ 20年の歩み

上勝町は1997年に9品目分別システムを導入したのち、
2001年までに分別品目は急速に35品目まで拡大。
現在では13品目43種類の分別を行い、徹底的したリサ
イクルシステムの確立を果たした。

日本初のゼロ・ウェイストを宣言した町である上勝町は、
持続可能性、地域参加、文化保存を通じた地方創生のモ
デルケースとなった。



A Small Town Attracting Global Attention



1999年まで行われていた当時の野焼きの様子

20年間のプロセス



~1997: 野焼き

廃棄物処理の主要な手段としての野焼き処理



1998: 小型焼却炉の導入

小型焼却炉2基を設置
→ダイオキシン類対策特別措置法の公布により2年で廃炉



2001: 焼却炉の廃炉と分別開始

小型焼却炉の廃止
廃棄物の35種類への分別を開始



2003: ゼロ・ウェイストを宣言

町議会にてゼロ・ウェイスト宣言を採択



1993: 全世帯を対象とした家庭ごみ調査 全世帯を対象とした家庭ごみ調査



2002: 環境監視委員会「ゴミレンジャー」が発足：不法投棄ゴミのパトロールと住民への分別指導を実施



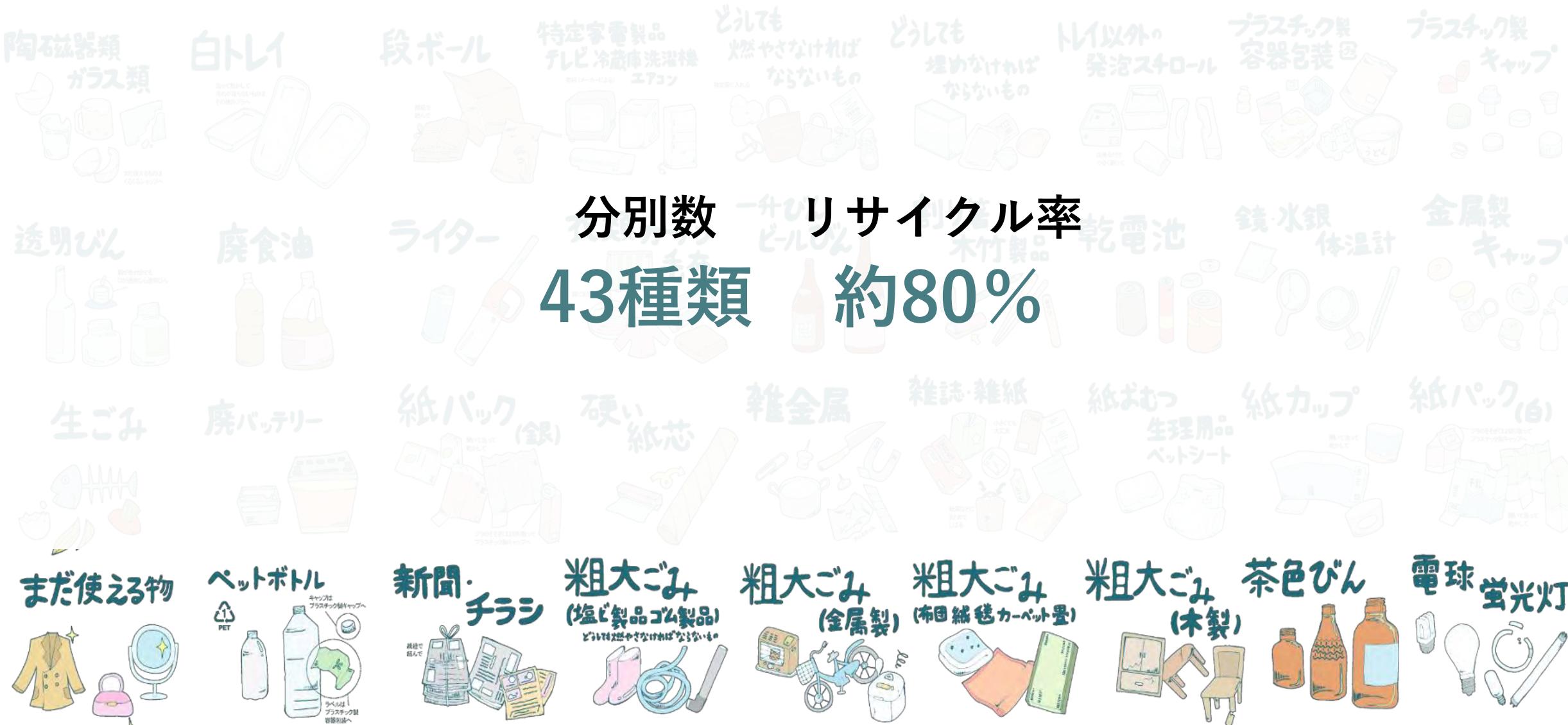
2016: 45分別開始

2020: 上勝町ゼロ・ウェイストセンター開設





分別数 43種類 リサイクル率 約80%



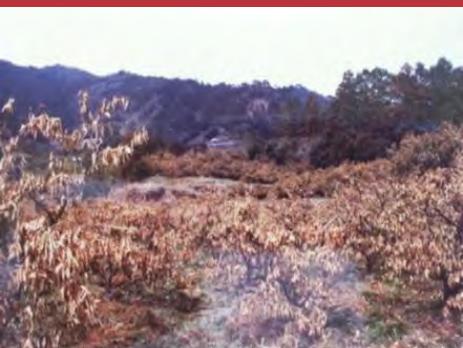
ゼロ・ウェイストの変遷

Phase I Transition

- ボランティア団体
- 町内NPO法人
- 上勝町役場（行政）

1974-1997

野焼き時代



大寒波により主要産業であったミカンの木が全滅

Phase II Transition

- 町内外事業所
- 世界
- 上勝町役場（行政）

1998-2020

ゼロ・ウェイスト時代



2億円の産業が新たにできる

2020
宣言2

2020-2030

全世代の活躍・自治の再編



Image via prtimes | Transit General Office Inc.



ICPD 30 Global Dialogue in Bangladesh

ゼロ・ウェイストを目指すことで

ポイントキャンペーン



資源の種類別にポイント付与

罰ではなく、信頼と報酬のシステム

アップサイクル、リユース



衣類・布地のリサイクルショップ

高齢者が新たな製品を創造

日用品を循環させるリユースショップ

住民の誇りの醸成



廃棄物管理に従事する職員は、地域社会の顔となる存在

職員は住民にとっての「指導者」として、また住民の声を拾う役割を果たす

共通のゴールがうまれる



ゼロ・ウェイストを町民全体で
共有できる仕組み、イベント実施

透明性が高まる



分別による資源の循環と資金の透明性

独自の社会規範づくり



互いにチェック、情報交換をして規範
をつくっていく
「きれい」とは？

即时的なフィードバック



住民に即时にフィードバック、コミュニケーションができる



ゼロ・ウェイスト認証制度

The “Zero Waste Accreditation” is to certify local businesses contributing towards the zero waste society. Businesses need to fulfill qualifications of:
a) providing trainings for their employees; b) complying with the local segregation & recycling systems; and c) submitting their zero waste goals and followthrough their plans, then reviewed through the 8 categories.



地域の食材を活用し地産地消に努め
ごみの発生抑制に取り組んでいる
By purchasing locally, preventing
over-packaged products



食材や資材の調達において
ごみの発生抑制に取り組んでいる
Maximizing returnable & re-use
options to reduce packaging
through purchasing



利用者が食器や容器などの代用品を持ち込むことで、ごみの発生抑制に繋がる仕組みを導入・周知している
Providing “Bring Your Own” option
for takeaway in bottles or containers



再利用を通じ、地域内のごみの発生抑制・資源循環に取り組んでいる
Utilizing unused and/or Re-using
local resources to contribute to
the local circular-economy



おしゃり等の無料サービスにおいて
ごみの発生抑制に取り組んでいる
Using alternatives to avoid
“single-use” products



利用者がごみの削減あるいは
分別に取り組める工夫をしている
Encouraging customers to
participate into zero waste activiti



生産や流通の過程で通常は
廃棄されるような食材を活用している
Utilizing food that discarded in
supply-chain as usual



調理方法の工夫や食材調達の工夫などにより、そもそもロスを出さないようにする仕組みがある
Established a system to make
whole use of food to produce no loss

Zero Waste accredited cafes/restaurants outside
Kamikatsu - now expanding!

刈水庵(長崎)
1. Karimizuan (in Nagasaki)



上勝町ゼロ・ウェイストHPより
<https://zwtk.jp/townoffice>



上勝町ゼロ・ウェイストセンター

世界との繋がり



INOW : Your Home In Kamikatsu

INOW (いのう)

Transformative Learning Program

= 体験によって自らを変えることができる学びの機会

INOWでは、ゼロ・ウェイストや田舎の暮らしを理論・実習を通して学び、自己内省を促すためのきっかけを提供する滞在型ラーニングプログラム。



INOW Guests



A Small Town Attracting Global Attention

タイの起業家ゲストたちの実践



A Small Town Attracting Global Attention

視察・研修受け入れ実績
(2024年度)

視察者 **INOW**
2,172名 + 152名
[約20ヶ国]



上勝町×三菱地所×スペック：
生ごみの液肥化「reRise」を軸とした循環型まちづくり
Forbes JAPAN「Xtrepreneur AWARD 2024」受賞



一般社団法人
小型家電リサイクル協会協力のもと
子ども向けPC解体WS



TBS主催の「地球を笑顔にする広場2025春」
ゼロ・ウェイストハブ2025の監修／運営



ナイジェリア万博
国際交流プログラム訪問団受け入れ



2025年大阪・関西万博にて
上勝の杉を使った医師用
ユニフォームが使用



ICPD 2024 in Bangladesh, Dhaka
No one left behind discussion
国際開発人口会議にて登壇

上勝の事例から。

“社会”として課題に取り組むための要素

つなぐ

関係を編む

異なる立場や価値観のあいだを行き来し、翻訳・共感・調整をおこなう。単なる中間支援でなく、両者の間を行き来して新しい秩序を生み出す“動的媒介”。

ひろげる

新たな関与・活動を生む

媒介によって生まれた関係から新しい活動やつながりが生まれる。新しい関わりしろが増え、「個人の可能性」×「地域の愛着」が循環する。

いれかえる

主体・価値の更新

関わる層・主体が変わりながら、地域が生き続ける。新しい活動が古い活動を上書きしながらも、地域のDNAは保たれる。「衰退ではなく、更新」としての変化。

つなぐ

異なる立場や価値観のあいだを行き来し、翻訳・共感・調整をおこなう。

- ・対立する価値観

（賛成／反対、内発／外発）を橋渡しする。

- ・上勝町の例

ZW推進員が「行政と生活者」「理念と実感」を媒介。

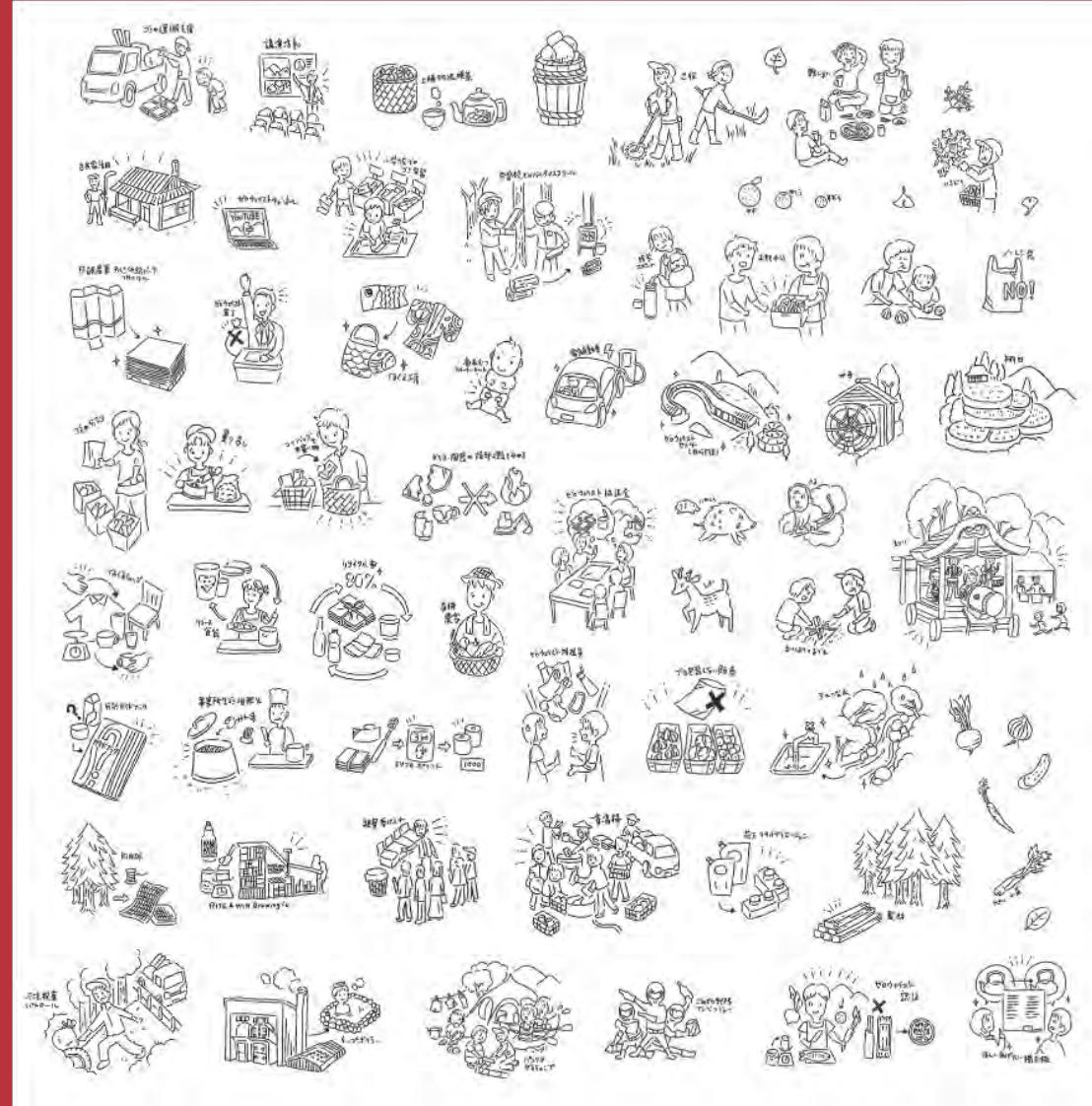
単なる中間支援でなく、**両者の間を行き来して
新しい秩序を生み出す“動的媒介”として機能。**

■ 上勝町における「つなぐ」主体

- ・NPO法人ゼロ・ウェイストアカデミー
- ・ゼロ・ウェイスト推進協議会
- ・ゼロ・ウェイスト推進員
- ・一般社団法人amu



あなたにとっての、ゼロ・ウェイストとは何ですか？



約60種類のアイデア

上勝町における「ゼロ・ウェイスト」は、ごみゼロだけを目指す物ではない。

文化や伝統、自然資源など
人の営みがあるからこそ、ゼロ・ウェイスト
という手法が生まれた

ひろげる

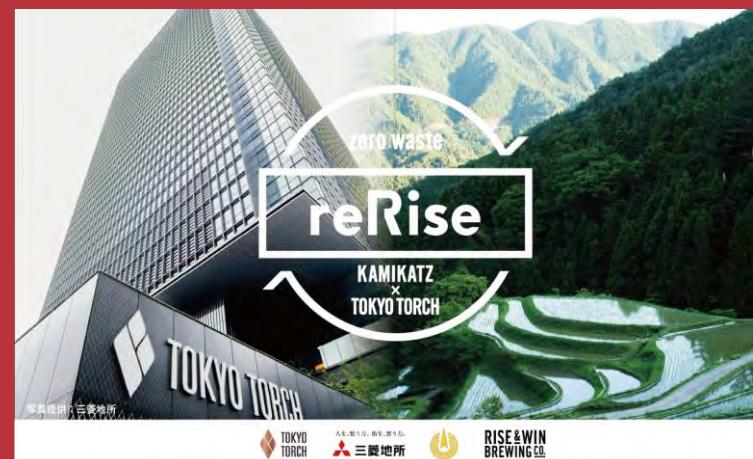
媒介によって生まれた関係から新しい活動やつながりが生まれる。

- ・ZWを通じて自ら動く人が増え、個々が新たな関係・事業を結ぶ。
- ・INOWのように、地域→世界への接続が生まれる。
- ・新しい関わりしきが増え、
「個人の可能性」×「地域の愛着」が循環する。



■ 上勝町における「ひろげる」主体

- ・株式会社BIG EYE COMPANY
- ・株式会社いろどり
- ・INOW
- ・その他町内事業所など



上勝町ゼロ・ウェイストロードマップ

くらし

ゼロ・ウェイストは
どのように私たちの生活に
組み込まれ、豊かにして
いるのか

チャレンジ

現在の課題と今後削減
したい課題

教育

未来のリーダーを育て
るために

こうなりたい（私たちが望む未来）

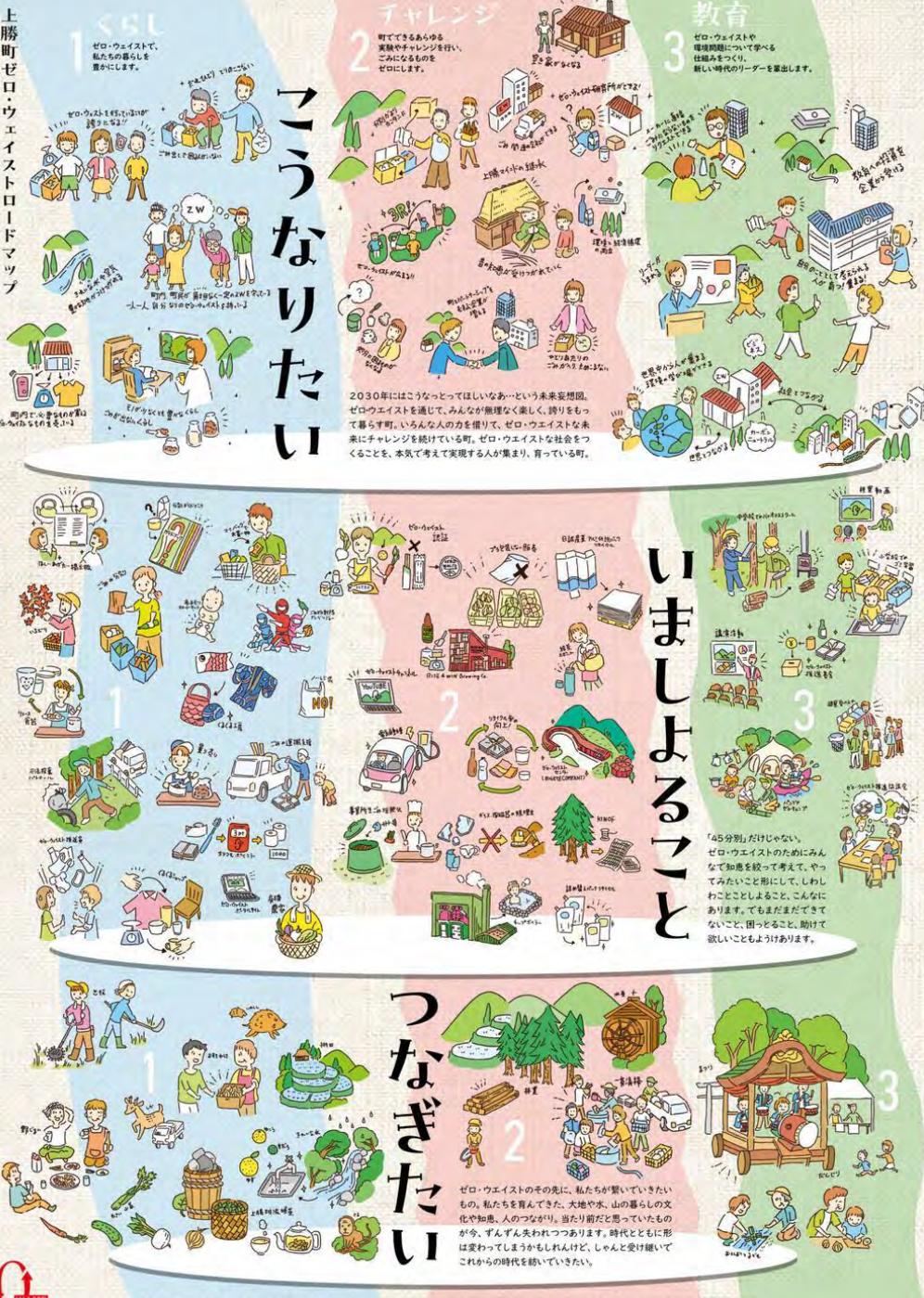
ゼロ・ウェイストで暮らしが「豊か」になること。現状の課題を打開できるように様々なチャレンジを惜しまないこと。未来を考えて行動できる人材を育てること。

いましょること（現在とりくんでいること）

43種類の徹底したリサイクルシステム。その上で、ごみの発生抑制が実現できるような仕組みづくり。
様々な企業や地域との連携と、若い世代への環境教育の実施。

つなぎたい（文化や伝統にどうつながるか）

文化と知恵は私たちが当然のこととして受け入れてきたものであり、次第に失われつつある。
しかし私たちはそれを継承し、未来へと紡いでいきたい。



いれかえる

関わる層・主体が変わりながら、地域が生き続ける。

- ・主体が変化していくことを恐れず、能動的に投資し、柔軟に受け入れる。
 - ・新しい活動が古い活動を上書きしながらも、地域のDNAは保たれる。
- 「衰退ではなく、更新」としての変化。

■ 上勝町における「いれかえる」主体

???

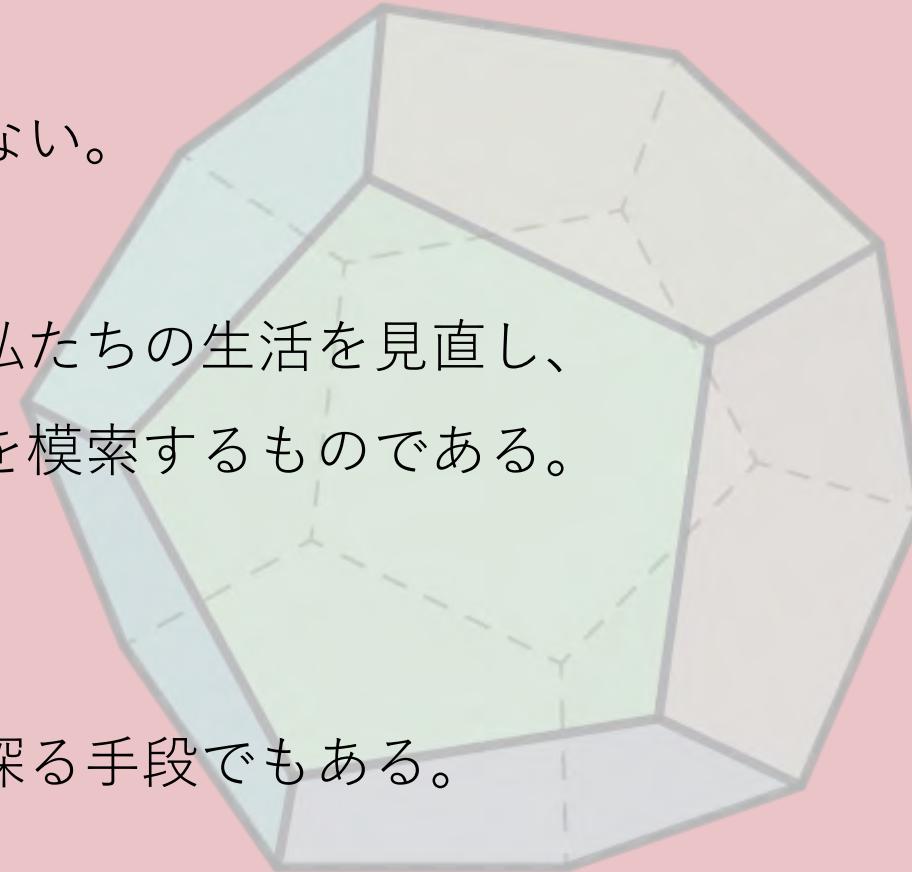


ゼロ・ウェイストの実践を通して

ゼロ・ウェイストとは、
単にゴミをゼロにすることだけではない。

自然や地域社会とのつながりの中で私たちの生活を見直し、
自然環境を含めた持続可能な生き方を模索するものである。

あらゆる世代の価値観を知った上で、
多角的な視点から根本的な解決策を探る手段でもある。



それぞれの役割で

上勝の資源を活用する企業と製品



自然資源



自然保護と経済のバランス
ゼロ・ウェイストに沿った店舗運営

ZW
関連
事業

Zero Waste

行政



町民

仕組みへの参加（分別など）





つながり、ひろがる社会の仕組み
-徳島県上勝町におけるゼロ・ウェイストの実践例-